

釧路森林資源活用円卓会議資料

1. これまでの議論について

表－1 木材（地域材）利用の現状等意見＜川下部会 H23. 2＞

項目	内容	
資源	東北海道には膨大な森林資源がある。	
安定供給(原料確保)	(良質材での)安定供給が課題(2)。	
性質・品質	部材のわれや収縮、しなり、狂いがみられることが(3)。	
	強度の観点などからカラマツ以外の樹種を選定(広葉樹)。	
	木が硬い部分は(針葉樹の中で)、評判が良くない。	
	カラマツ材は目がきれい。手作りのよさもある。	
	住宅は特徴がローカル。環境負荷のPR有利。	
価格	コストが問題(木材を使うと割高)(5)	
説明・人材育成	工務店段階での誤解を解く作業が必要(4)。	
	建て主の理解が必要(2)＜しなり等は木ならではの味との捉え方も。作成段階からの参加で愛着。＞	
	理解する環境づくりが必要、担い手対策も。必要。	
	管内業者は、様々な技術を持っている(平行弦トラス・Vの字トラス、ルーバーでの使用。)	
プロモーション	広報PRも大事。	
	木造牛舎は環境的にいいと感じるが、現在建ってない。	
ローカル	ロシア、中国に売るチャンスもあるかも。カラマツのイメージを変えることが先。	
品質管理	木材側からの保証があれば広がる(2)	
	クレーム対応が特に困る。	
使用用途	おが粉は、副産物ではなく製品。	おが粉
	オガ粉が不足。	〃
	細い木多い、構造材は集成材で使用がよい(2)。	集成材
	狂う部分は集成材(2)。ドア枠、巾木などはこうした使用がよいのでは。	〃
	天井や腰壁に使用(2)。羽目板などはエンドユーザーに受けが良い。	内装
	浴室には良いが、外壁は難しいという声もある。	〃
	牛舎(鶴居や陸別など)などでも取り組んで欲しい。	構造
	管内でカラマツを使った動き。カラマツを使ったアーチ材、車庫。	車庫
	これまで学校の机や椅子を作ってきた。	机
	材質の関係でタモ材の机。チャンスがあればカラマツで試作したい。	〃
新しい住宅の建て方や考え方をもって、建築に当たるべき。	住宅	
商品開発	形、材質に手を加える(工業的な)取り組みも。	
	間伐材を再利用できないか、小径木の利用カバやハンで試して。	
	間伐材を「釧路発の何か」に使っていかねばいけない。	
ブランド化	先ず、カラマツのイメージを変える(誤解を解く)。その後ブランド構築。	
	釧路材をブランド材に高めるまでいけるか。	
連携	木材業者と建築業者の連携を深めるべき。	
	地域を発信し、全国に売り込むため会議で何かできないか。	
	メンバーが知恵を出し合って勉強すべき。	
行政との連携・補助	市から、固定資産税減免措置等もあるといい。	
	補助メニューの紹介、行政もバックアップが出来ないだろうか。	
	地域材住宅の支援(40万円)の補助も地域でお知らせ	
	公共建築物～法律を踏まえ、流れが出てきたら作ることが出来る体制に。	

表－2 円卓会議開催にあたっての事前意見(H23.5)

項目	意見
地域材の域内循環 にとっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・川上で考えられることは、釧路市有林の現状の分析と将来の低コスト高効率化施業に向けた施業計画の作成と路網整備の促進が急務である。 ・魅力ある商品の開発、コスト。
今後の調査・実証等	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドによる資金調達方法の検討 ・地域材を使っている数箇所の建物見学会を実施したほうが良い（出来れば完成から1年以上経った建物） ・唐松材並びに、唐松集製材の工場見学も実施したほうが良いと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・総論から各論へ。

2. 今後の取組について

表－3 意見を踏まえた課題整理

項目	課題	No
資源	利用可能な「量」が不明	1
安定供給(原料確保)	地域の木材が「安定的」に供給されない	2
性質・品質	木材性質に難(利用の手法(技術)が普及しておらず、性質が不安定)	3
価格	地域材の利用に「コスト」が掛かりすぎる	4
説明・人材育成	木材・地域材を利用することについて、「地域の共通認識」が不足(設計者、工務店含む)	5
プロモーション	木材・地域材を利用することのメリットが認識されていない	6
品質管理	満足できる「品質」の木材が供給されない	7
使用用途	必要とされる条件が満たされていないのに、画一的な木材利用が行われている	8
商品開発	顧客ニーズにあった商品が提供されていない	9
ブランド化	地域材を利用するインセンティブが不十分	10
連携	地域内での連携が薄い	11
行政との連携・補助	(コストに見合うだけの)メリットがない	12

→今年度から課題解決に向けた取組を実施(次ページ、取組み事例案を掲載(表－4))。
 まずは、「地域の共通認識」を高める取組を進めること
 (それぞれのニーズをお互いに把握すること)が大事ではないか。

表-4 地域の課題に沿った取組事例（案）

戦略		取組(戦術)			
		抽出された課題と取組		各々の事業体取組事例、地域で取り組むこと	
製品戦略	品質・性能に優れ、消費者に満足を与える製品の提供	7	品質管理		
		9	商品開発		
	技術力の強化・向上	3	付加価値向上		
		10	差別化・ブランド化		
	木材を使い切る多様な製品の提供	8	多様な利用(バイオ)		
生産・流通戦略	生産性の向上と無駄の削除	4	生産性向上(コスト削減)		
	多様なニーズにこたえるサービスの提供 	1,2	材の安定供給体制		
		2	納期・配送		
		5	人材確保・育成		
		8	販路開拓		
		10	証明		
		11	企業間連携(原木仕分)		
顧客戦略	顧客ニーズ把握	5,9	顧客ニーズ把握		
	分かりやすい木材情報の発信	3	消費者へ理念・意義普及		
		6	消費者理解・情報		
	木材に親しめる環境づくり	5	木育参画		
		12	公共施設率先利用		
地域戦略	地域ブランドの確立	9	地域資源製品提供		
		10	原木供給の安定化		
	地域資源やマーケットに即した経営手法の明確化	2,3,4	マーケットに即した経営手法の明確化		

【今回の討議テーマ】

(地域材利用の観点で) 全段階の顧客満足度向上にむけた
必要な「情報」の精査・共有

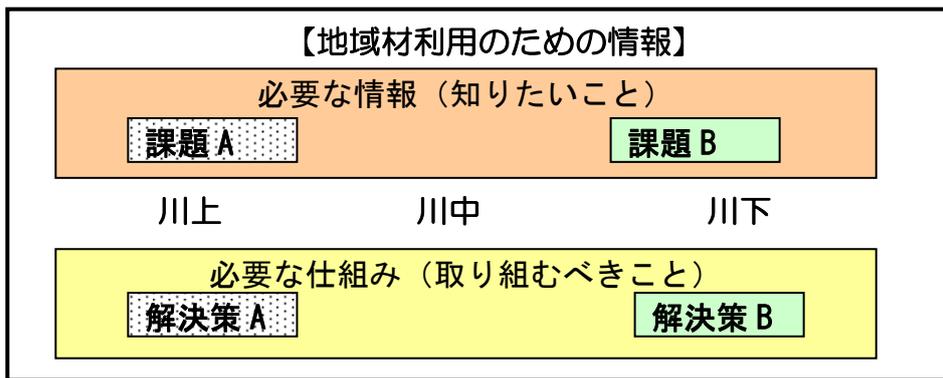
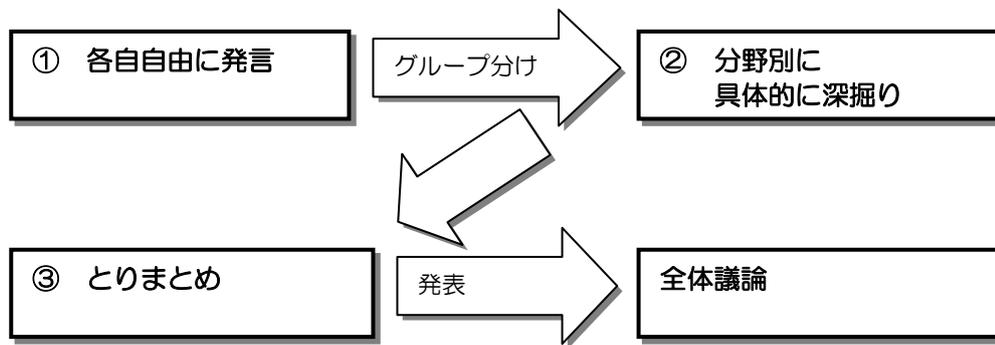
- * 各々(あるいは業界・団体)が欲しい情報、情報提供時の課題
- * 情報共有の仕組みの提案

3. 討議の方法

グループ討議（1時間程度）にて課題抽出、全体討議（30分程度）にて、取組検討へ

- ・どのような「情報」が欲しいか。（要望・課題）＜例；品質、コスト、必要ロット＞
- ・課題解決のための仕組み（～情報の調査、～情報の集約、～情報の発信）

*情報の種類と、必要な仕組みの両方について、発言



附箋等を活用し、整理しながら進める。

4. 今後のスケジュール

- ・全体会、川上・川下部会の具体検討テーマ、開催回数の設定

<今回、議論>

《全体会》【2～3回程度】

- ・目指す姿の設定（市全体及び各地区の姿。市町村森林整備計画とも連動）
- ・地域材供給（利用）量の長期計画設定、H24以降の動き

《川上部会》【3回程度】

- ・地域特性に応じた森林施業とコスト削減策＜現地中心＞

《川下部会》【3回程度】

- ・地域材利用の拡大策（解決方策の具体的実施）

円卓会議（H23第1回）の進め方

○グループ討議・全体討議について

《テーマ》

（地域材利用の観点で）全段階の顧客満足度
向上にむけた必要な「情報」の精査・共有

＜班構成＞

	A 班	B 班	C 班
造材、 森林土木	有限会社山二伊東産業 伊東 幸裕	雄別林業株式会社 大谷 義次	株式会社 北都 山崎 正明
	葵建設株式会社 山中 博	近藤林業株式会社 高橋正廣	株式会社ニチモク林産北海道 池田 昌巳
製材	丸善木材株式会社 鈴木不二男	大澤木材株式会社 大澤 友厚	
設計		生活建築設計室 柏木 茂	(株)長谷川建築設計事務所 長谷川 渉
建設、工務店	(有)丸裕田中建設工業 田中 安雄	(株)小野寺組 小野寺 俊	さく田建設株式会社 さく田 武
川下	(株)大津製作所 大津 幸三《途中退席》		(株) マルセンクリーニング 中田 等
試験研究機関	釧路工業技術センター 綿貫 幸宏	釧路工業高等専門学校 荒井 誠	釧路工業技術センター 瀧本 文一

* グループ人数は、各 6 人程度（それぞれ川上、川下が含まれる構成）。

鈴木座長、大澤・長谷川部会長の 3 グループに分かれて討議。

各々（業界・団体）が欲しい情報、提供時の課題。情報共有の仕組み提案
随時議論のキーワードを附箋で整理

○時間配分

＜第 2 委員会室に移動＞	(討議目安)
10時20分～40分 各業種で課題・解決策（1人3～5分程度）	* 20分
10時40分～11時 他メンバーの課題解決の方策（自由）	* 20分
11時00分～10分 議論深掘り＜具体的行動に向けて＞	* 10分
11時10分～20分 とりまとめ	* 10分
＜第 1 委員会室に移動＞	
11時25分～11時35分 グループでの課題発表	* 10分
11時35分～11時45分 全体討議	* 10分

森林資源活用にかかる検討スケジュール(案)

		H23年度												H24年度		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	備考	
外部	全体会議		【事前打】	【会議】 部会報告							【会議】 木材利用計画 (案)の討議		【会議】 木材利用			
	円卓	森林経営部 会(川上)			【現場】 各地区森林 整備状況説明		【会議】目標(シ ステム)検討			【会議】 木材産出量検討						
木材利用	木材利用部 会(川下)				【会議】 市民への効 果的な普及		【会議】 バイオ・畜舎等		【会議】 人材育成	【会議】 木材利用量 検討						
	その他	住と森 (林産試)									調査					
市	市町村森 林整備計 画(案)			道補正	交付決 定・実施											
						【計画】作成作業 チーム・ゾーニング、 施業基準、路網計画 内容検討	【森林経営計画への 移行作業の開始(団 地設定、所有者取り まとめ等)	地域住民等 との合意形 成	ゾーニング 作業、「計画」の内 容調整	隣接町村等 と調整	【計画】案 作成	【計画】 公告・縦 覧	【計画】 決定	【森林経営 計画】認定		
				振興局担当 者会議		【経営計画移 行への対応 方法	森林計画等業務担当 者研修会(振興局、市 町村)	地域森林計 画(案)作成	案の公告・縦 覧	地域計画 の決定						
道	(地域森林 計画)															
国	(森林・林業 基本計画)	森林法 改正 (4/15)				森林・林業基本 計画及び全森計 画の閣議決定	新たな計 画制度等 の説明会									改正森林 法施行 (4/1)

* その他 圧縮木材(高専)、木質バイオ(サンエス)など地域での検討事項を必要に応じて紹介。